

国内最大の風力発電向けプロジェクトファイナンス組成について

株式会社みずほ銀行（頭取：林 信秀、以下「みずほ銀行」）は、このたび、株式会社日本政策投資銀行（代表取締役社長：柳 正憲、以下「DBJ」）および日本風力開発株式会社（代表取締役社長：塚脇 正幸、以下「JWD」）が共同設立（※）した日本風力開発ジョイントファンド株式会社（以下「ファンド」）の風力発電施設取得にかかわるリファイナンス資金について、アレンジャーとして、総額約 240 億円のプロジェクトファイナンスを組成しました。

エネルギー自給率の低さや CO2 削減目標が掲げられる中、日本では再生可能エネルギーのさらなる導入・拡大が期待されています。DBJ と JWD は日本における風力発電の一層の普及・拡大に向け、2016 年 2 月に共同で約 340 億円規模のファンドを設立して、日本風力開発から全国 15 カ所の風力発電施設を買い取り、運営を開始しました。

本件は、ファンド規模の約 340 億円のうち、DBJ からの融資約 240 億円分をリファイナンスするものです。また、複数の発電所ポートフォリオを対象とした国内最大の風力発電向けプロジェクトファイナンスとなり、みずほ銀行に加え、全国の地域金融機関および中央機関投資家等、計 9 つの金融機関が参加しています。加えて、円滑なリファイナンスに向け、2017 年 3 月に格付投資情報センター（R&I）からトリプル B の格付を取得しており、外部格付を取得した国内初の風力発電プロジェクトでもあります。

みずほ銀行は、持続可能な社会の形成に向けて、プロジェクトファイナンスをはじめとするさまざまなファイナンスを活用し、再生可能エネルギーの普及を全面的に支援してきました。特に、日本国内の再生可能エネルギー分野におけるプロジェクトファイナンスにおいてトップクラスの実績を保有しており、今後も、積極的に取り組んでいきます。

DBJ は、長年にわたり再生可能エネルギー分野を支援し、特に近年では国内外の風力発電プロジェクト、メガソーラープロジェクトやバイオマス発電プロジェクトに対してリスクマネーの供給を行う等、再生可能エネルギーの導入・拡大を積極的に支援してきました。今後も、投融資機能を最大限活用していくとともに、機関投資家への長期投資機会の提供にも積極的に取り組んでいく方針です。

(※) 2016年1月13日 日本風力開発株式会社、株式会社日本政策投資銀行
「日本風力開発(株)と(株)日本政策投資銀行による大規模風力発電事業の共同
運営ファンド組成の合意について『(仮)日本風力開発ジョイントファンド』」
(http://www.dbj.jp/ja/topics/dbj_news/2015/html/0000021298.html)

以上

(ご参考)

【プロジェクトファイナンスの概要】

組成金額	約240億円
リードアレンジャー 兼エージェント	みずほ銀行
貸出人	みずほ銀行、日本生命、静岡銀行、第四銀行、 東邦銀行、みちのく銀行、りそな銀行、 NTTファイナンス、岩手銀行
契約締結日	2017年3月13日

【ファンドの概要】

名称	日本風力開発ジョイントファンド
ファンド規模	約340億円
匿名組合出資者	日本政策投資銀行、日本風力開発
出資期間	各発電所において、固定価格買取制度における売電 期間終了までを予定
資本金	10百万円
株主	日本政策投資銀行(50%)、日本風力開発(50%)
本社所在地	東京都中央区